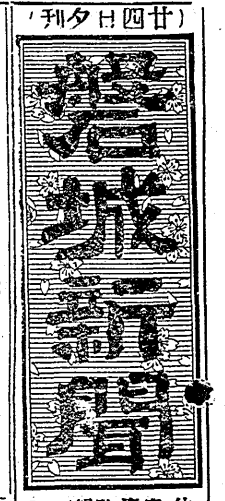
（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和三年八月二十五日　磐城新聞　【土曜日】　第二千三百二十五號　（一）

（廿四日夕刊）



休刊　大祭第一第三日曜
定價（一ヶ月壹枚二錢、壹ヶ月二十五錢、郵稅十錢）
廣告料（一行五錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　福島縣平町田町拾六　遠沼龍輔
發行所　磐城新聞社　電話五四番

痴人の言葉を聽け

早川悌次郎

世は無情と云ふか、斯くを感することが出來ないか歎ずる事を止めよ。人は各ゝだ。私は自分の淋しさを堪ね切れぬ重荷を負ふてよろみ〳〵と感得することのみばひ歩んで居るのではない出來る證明な心がほしいのいか。どうして自分の地位だが。

を不安にしてまで他人の世話をして居られやう。自らを自らで救ひ上げて歩んで行かねばならぬのが人生の常道なのだ。徒に感傷の淚を流すべきでない。

人の缺點に對して嘲笑、皮肉を浴せかけるべきでない。自己の缺點をえぐられると云ふことが如何に痛いものであるかと云ふことは自分でよく經驗して知つて居るではないか。しかし、底に深い愛をたゝへての言であるのならこの限りでない。

◇

昧な人間よりも善惡にかゝわらずハッキリした個性を有する人間が面白い。と云ふのはそれだけその人間に力強い生命力を持つて居るからであらう。

やけつく樣な蟬の聲。それには私は全然美しさと云ふものを感じ得ぬ。けれども私はあの音色に一切の生物に內存する生そのものゝ熾烈な意志を感ずる。

肉體的にも精神的にも進展向上のない生活はいけない、如何に貧乏をしても其處に進展向上のある限り希望もあれば、力も出る。

子供を倦怠せしめない爲には具體的な目的物がいる。友達、玩具、お菓子、兩親等それ等の有形物が。身邊にありてその退屈を消して呉れない時、子供は不滿を感じて泣き出す。

◇

私は孤獨な生活をしてゐるけれども、淋しさと云ふものを感じない、これは私の頭が絕えずいろ〳〵な考へで、いつぱいになつてゐるので、あんぐらかつてゐるので、あゝ現がすみきつて此の廣い天地に生れて孤獨な自己それらすして無能の者と生れた者を救ふべはないものだらうか。

晝の間如何に苦しみ悶え悲しみ疲れても、深い夢もない安らかなねむりを得ることが出來たらば夜が明けると共に再び新しい氣力の充實をもつて働くことが出來るであらう。我々はどんな時でも床についたならばすぐに深いねむりに入り得る樣に修養すべきであらう。

問を懷き、迷ひ、苦しまねばならぬ。

◇

人を待つ間の時間と云ふものは何故に苦痛であるかそれは自分の心がすべて待つ人に傾いて居るからである。そして待つ人が來ない間は滿足出來ないのだ。他ひ生ぜぬ樣注意すべし。三の方面に決して心を振りむき考へれば考へる程不利の碧氣緩みを生ずる事は事物停滯間違ひも生ず。六白　遠き先を見越しての計畫に本業を守り投機業に手出しせぬ樣注意。九紫　思ひ切つて行ふ事は順に運ぶ。

縁　目上の同情ある日諏遲ければ更に實入りあり。五黃　奮入りすぎて迷惑のふ。四綠　目下の同情ある日諏遲だから待つ人が來る迄の刻々の時と云ふものは不滿と焦燥の連續なのだ。

故郷の言葉は不思議な力を持つわれ〳〵が遠い他鄉畫は達算あり易き日。七赤から故鄉に歸つて、自分の高遠の思想も凡夫の考へに生れるとから親しんで來た如かす進むは凶。八白　着言葉に接する時、心の緊張れには私は全然美しさと云ふものゆるみ、のびやかになる。

も私はあの音色に一切の生物に內存する生そのものゝ熾烈な意志を感ずる。

肉體的にも精神的にも進展向上のない生活はいけない、如何に貧乏をしても其處に進展向上のある限り希望もあれば、力も出る。

子供を倦怠せしめない爲には具體的な目的物がいる。友達、玩具、お菓子、兩親等それ等の有形物が。身邊にありてその退屈を消して呉れない時、子供は不滿を感じて泣き出す。

◇

私は孤獨な生活をしてゐるけれども、淋しさと云ふものを感じない、これは私の頭が絕えずいろ〳〵な考へで、いつぱいになつてゐるので、あんぐらかつてゐるので、あゝ現がすみきつて此の廣い天地に生れて孤獨な自己それ

※……明日
※……吉凶
※……七赤月　八白新月　二黑の舊曆五日

人口激增
生活不安
選べ！
店員ノ覺醒！

一、將來生活ノ安定ヲ
一、模範的組織ニ依ル營業方針ヲ
一、擴張……進力アル……商店ヲ

最モ進歩セル店員待遇法ト右要件ヲ完全ニ備ヘテ……

◇店員ヲ募集ス

一小店員十六歲以下　十　名
一店員二十二歲以下　十　名

希望ノ者ハ左記ヘ照會又ハ來店ヲ乞フ（旅費當店負擔）

合名會社　**三ノ輪店**（南千住　三ノ輪　電話淺草一四九九番）
町屋店（三河島町町屋二　電下谷近日開通）
目下建築中十月一日開店

つるや呉服店
店主　田舍者（平出身）

醫院開始
◇內科　◇臟外科　◇外科一般　◇花柳病科
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋㊇**釜屋商店**
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の**生命**なり

夜間診療
胃腸　內科　十二指腸病　內科部
專門
婦人病　淋病　皮膚病　外科部
專門
松村病院　平南町　電一〇七番

「それやアそうでげせう」と四邊をみまはしてゐる。

「左樣さな、辛夷花や丁字連花んぞでは最う珍らしかアなし、緋桃もあるがまだ蕾が固い、む、有る〳〵ソレ彼所に揚梅がある彼花を切つて上げませう」

と鋏を取つて枝振る佳さうなのを五六本も伐つて來た。

「甚麼も有難う」

と雪江はそれを受取つたが其儘立去るでもなく何か用ありさうに

「アノ爺や、に前梅さまの事を聞いたかね」と喞しかりたさうに。

「梅株？」

と雪江は訝しげに

「そんな主人のざんぞは言ふものぢやアありません、犬猫でさへ三日餌はるれば恩を知るといふぢやなかつたことがあるもんだから凡て盆栽は汝に限れるといふ事がありますからなんて用人衆が嬶で上げちやア例も私の方へ隱居役者の先生、彼人でげせう、を持込むんでさア、齡は取りたくないものさね、アハ……」

齒の拔けた口を見せて笑つた。

「でも面白いわ、暢氣で」

と雪江もにつこりして

「おや〳〵牡丹は例年もそんなにして置くのかね」

「ねゝ秋の彼岸に地に下して寒肥をやつて霜の手當をして置かないと花は持たないでさア、最う好い時分だから地揚をしてやつてるん御挨拶でね」

「にや〳〵」

「如何程おすゝめ申してもお聞入がなかつたんだとさ」

「へえ——」

「困つて了うわねえ」

と失望らしい溜息を吐くのを與市霞む眼に仰着げて

「ハッハッハッついでさア、汝の方なりの」

と莞頭を掻く。

吉田眼科醫院

青沼醫院

平町舊城跡（城山）
內科　小兒科　皮膚科　花柳科
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

中元贈答品

として必ず皆樣の御滿足を得る品は
◎タオル箱入　三本　五本
◎◎敷布箱入　下
◎◎◎昏シャツ
◎◎◎縮シャツ
生布箱入
◎◎ツルヤノ特價石鹼
商品券の御利用は最も便利です

ツルヤ

新製品着荷御案內

優美典雅な御大典記念時計が種々着荷致しました記念として永久的な御贈答品に最も良く値段も三圓より拾圓位迄す御散歩の折柄是非御立寄御覽を願上ます

院長敬白

大谷時計病院
電話一九番

教授

裁縫　奧田式及び水引細工
華道　古遠州生花、小原流盛花
茶の湯　裏千家

平町白銀町（平劇場前）
高橋光春
電話六三八番

新盆用提灯御用

御注文〔御戒名入ハ〕絕對他店ノ追從ヲユルサヌ品質本位廉價第一ノ

菅ノ寺提灯店
三丁目　叶町　四丁目
加藤提灯店
菅野提灯店
電話七一二
鎌田町
加藤提灯店へ

御用命の程御願申上げます

平町研町（公園下）
產婆　草野靜枝
電話（呼）四四三番

內科、小兒科
花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

平町を脅かした 傳患の總勘定
發生患者七十七名 猶は七名を收容

平町に於ける今春來惡疫腸チブスの流行は驚くべきものがあつて此れが爲め平町に於て執行さるゝ筈の徴兵者は植田町に臨時變更せられ平町商街花街の書入時だ花見は丸潰れ等に其の被害頗る甚大であつたが平署、平町の兩當局が必死となつて豫防に努めた結果腸チブスの最流行期である梅雨から土用にかけては漸次下火に傾くと言ふ珍現象を示し現在隔離病舍に收容中の患者は

平町四丁目加藤シモ（三〇）同キク（二七）田町吉成フミ（一〇）二丁目菊地愛子（六）田中町長瀬卯太（五三）胡摩澤山森タマ（三三）田町根本マツ（三四）田町椋木キイ（三三）

の七名だけであるが各れも輕症で近く退院の見込で前記七名を加へて今春一月から現在までの腸チブス患者は實に七十七名と言ふ例年の約二倍に達する驚異的數を示してゐる、患者發生を各町別にして見ると

字田町が十五名で第一位流石に今年の腸チブス本源地である事が肯れる次は十五丁目の七名、あるが新市街地である比較的空氣の新鮮な地であり乍ら患者の多かつたのは衛生設備の不完からであるらしい以下二丁目及三丁目の各六名、四丁目五名、才槌小路、紺屋町、南町の各四名、仲町、常の前の各三名、白銀、新町目、田中、大町、鍛冶町、胡摩澤各二名、舊城跡、北目、久保町、古鍛治、長橋、月見町、大工町の各一名

と言ふ割合で例年腸チブスの其の他の本源地となつてゐた立町、七丁目等の如き一人の患者も發生してゐないのは同方部民が衛生思想に目醒めて來た結果であると

盆氣分も濃厚に 平町活氣付く
中元贈答品も相當に 鐘や太鼓の賑ひ

平町地方は七夕祭りもすぎて舊盂蘭盆もあますところ三、四日の後となつたが經濟中心地である平町の盆は氣を見るゝ經濟的打擊を受けてゐるものゝどうやら表面だけでも常と變つた活氣を寄せて來た、大通りの各商店では聯合大賣り出しを恒例によつて開始し盆の必需品とか御中元の贈答品を數多くならべて客をあつめてゐる、石城郡地方は全部舊暦で盆を迎へるの活氣も亦別だが、花柳界を見ても商店界を見ても、盆の景氣を當し込に活氣を見せてゐる、何と云つても盆の景氣は商店が中心であるが、不景氣になやまされてゐる處を如實に物語るものは商品が格安物でよく賣れる事で、平均價格は前年に比較して約二割方安になつてゐる由に各商店共高い良い品よりも安いものがよく出るので安いものをそろいてゐる狀態である磐城名物ヂャンガラ念佛の陣鐘太鼓が平町附近から節かれるやうになり、平町は兎にも角にも盆らしくなつて來た

女學校後援
高木正年氏揮毫

本郡四倉町出身松本勢武子女史の經營する東京府下雜司ケ谷常磐女學校は縣內有志其の他の後援で現在の進展を見てゐるが新選擧法施行後第一回總選擧に五萬餘票を得て全國最高位で當選した府下選出の盲人代議士高木正年氏は同校後援の爲め九月初旬來平し平町に於いて揮毫會を催し全部を同校基金に寄附する事となつた因みに揮毫は金五圓であると。

石城名所めぐり（三）
深水その幾尺かを知らず 辯天沼の奇蹟

△賢沼

豐間村大字沼ノ內にあり一名辯天沼とも云ふ、面積二町二段歩で一帶の丘之れを圍み、水道深碧宛かも藍の如くその深さ幾尺なるを知らず、頗る幽遠にして清淑に滿ち、人をして宛然仙化に遊ぶの思ひあらしむ、此の沼魚族の群棲夥しく大なるものは往々にして數尺に及ぶと雖も、古來禁漁の地なるを以て絕れて釣網を入るゝもの無く好く人に馴れ一度餌を投ずれば潑溂として爭つて之を喰ふ、亦た奇觀たり

△丹後澤

中城址の北方にあり一名後澤と稱す、周圍二町三十間南北二十間、面三町、水深十尺、赤井軌道會社此處に輕便鐵道を敷設し石炭を運搬したるも今は無く水涸れ大いにその美を損じたり、傳へ云ふに元和年間頃ほ鳥居忠政新城を築くの時、菅波村（現在の夏井村大字菅波）の老農丹後なるもの九十五齡を以て人柱に立ち、その堤塘水口を固めしより此の稱ありといふ、磐城古跡の一なり明治九年五月各地湯質調查書に丹後澤の冷水として一重一升、容量四百六十三匁、檢液器零下二度、惡味無臭あり、此の液は多く動植の腐敗物を含み排泄充分ならずして停溜するが故に新陳代謝することなく所謂死水に傾かんとせり是の水全く飲料に供すべからずとあり、

△中の新川

源を三大明神山より發し內郷村大字白水を經て內町に至り、大字宮より來るものと合して村の中央を東流し平町の南側をすぎ、飯野村地內に於て內鄉村御厩より來る古川と合會し、飯野村大字白土に於て夏井川と合す、流程約二里、此等の川は平時水量極めて細けれども霖雨に際しては一時氾濫し耕作物を害し、人家を毀損することあり

△鮫川

源を東白河郡鮫川村大字赤坂松根より發し、阿武隈山脈の諸流を集めて東上す、初め北流して竹貫宮本兩村に至り急轉し東南に折れ本郡に入り石住村を經て入遠野、上遠野の南方に至り轉じて山田村、川部村、錦村等を經、屢々屈折すれども大風南東に向ひ、幾多の支流を合せて本郡植田町大字岩間に至り海に注ぐ、流程十七里十五町、流域甚だ長からずと雖も河身廣大にして舟運の便あり、且つ灌漑の利頗る便なり、鮫川又た醍川につくる、石住以東凡そ八里鮫川の南北には古生層の露出する所ありて北は三坂より田人、荷路夫に至るまで廣く之れを發見すべし

△橫川

玉造川の下流仁井田の海口に至り、砂礫、壓塞する所あり直ちに瀉する能はず折流して橫川となり大浦村細谷の南方をめぐり新川を合して草野村下神谷の東隅に入り南流して夏井川に合して海に入る、夏井川口の塞がることあれば、その水却つて橫川にむかつて橫流し來る沿岸の諸村往々巨害を免れず川幅二十二間半下神谷境內を流るゝ長さ八百二十二間、稍々濁りてすこし鹹味を含む

御亭の睾丸を掴み 女房溜池に投身
痴情の喧嘩が原因して 勿來の死体判明

二十三日午後八時頃石城郡勿來驛前か、窪出に通ずる縣道東側の溜池の中に四十才位の女の死体が浮かんでゐるのを通行人が發見植田署に急報、後藤署長以下出張檢視した處上唇及び前額部に長さ三センチメートルの致命傷を發見他殺の疑ひあるので身許調査の結果此の者は當時川部村瀨戶居住茨城縣那珂郡御臺村生れ燒業鈴木宇中次、妻いさ（三二）と稱し去る十九日夜痴情の果て夫婦喧嘩を初め亭主宇中次の睾丸を握り締め宇中次が昏倒するのを見て其の儘逃走しテッキリ宇中次は死んだものと早合點し申譯けなさの結果自ら上唇を噛み投身自殺したものと判明したが宇中次は蘇生した

花柳病檢診に 女給連恐慌
雇主の不安

九月一日から實施される花柳病豫防法の周知徹底を期する爲めに平署では別項の如き日割で講演會を催す事となつたが此の法律施行後は女給も適用を受け藝妓酌婦と同一視されることゝなつたので平町を始郡下各地のカフェー等に居る女給約五十餘名は各れも悄々として中には適用を受けるのが嫌だとあつて女給を廢業する者續出する程だから書入の盆を前にして美しい處を揃へ甘い汁を吸はうとしてゐる當業者が汗だくとなつて女給募集に努めても女給を希望する者は一人もないと言ふ狀態で當業者は一大恐慌を感んじてゐる

七十七を迎えて 平町に卓球試合
二十六日午前十時から 各チームも參加

平町の卓球熱は近藤素晴しい勢で風靡し遂に今春平卓球協會の出現を見るに至つたが同協會の出現以來各チーム選手の技倆は長足の進步を示し七十七支店、平稅務署、平營林署、平第一校其の他最強を誇る平銀行チームを怖かす幾多強チームの續出を見てゐるが東北六縣卓球界の覇者仙臺七十七銀行チームは此の磐城卓球界を紛碎せんとして來平する廿六日午前十時から稅務署樓上に於いて決戰することゝなつたが此れより先平卓球協會では最強の七十七銀軍を迎へて一戰すべく秘策を練つて過般豫選會を行ひ平軍選手を次の如く決定し此れを迎擊する事となつた

全平代表

大坪、山森（平銀）長谷川（營林）細谷（七十七）入內（平第二）長瀬、三浦（稅務署）以上

尚七十七軍の陣容は

門馬、千葉、氏家、木村 菊地、菅、伊藤

當日兩軍の一大快戰を一般に公開する筈で入場を歡迎すると

茨城縣人會
植田町に開催

石城郡植田町の茨城縣人會は今秋盛大なる總會を開かんと目下幹部間にて寄り〱協議を進められ來る廿九日午前七時から本社植田出張所に役員會を開く事となつたが今次の新入會員としては柴植田驛助役をはじめ數氏あり益々發展を豫想されてゐる

胡鼠泥退治
茨城縣ご共力 植田署が

植田警察署では最近屆出になつてゐる大小十餘件の窃盜被害が殆ど犯人未檢擧となつてゐるので[illegible]署長自ら陣頭に立ち署員を督勵して犯人逮捕に努めてゐるがその多くがコソ泥であるのと縣境にある關係上手配の連絡が充分でないため搜査上少からぬ不便を感じてゐるがこれに就いては隣接茨城縣松原警察署とも充分な連絡をとつて必ず近い內にこれ等鼠賊を檢擧する積りだと語つてゐた

事業と人……（七）……延び行く二仁
盤石動かぬ住吉屋支店 高野分店の誇り

住吉屋支店

平驛頭に聳ゆる三層樓の旅館住吉屋支店は常磐線屈指の高級旅館である、設備完全、親切、叮寧を旨とし古き歷史と新らしき施設經營により益々その名を高めつゝある事は既に人の知る所である、鐵道省指定である同旅館は地の利と信用との並び備はる處から平驛が吞吐する多くの旅人は必らず同旅館を目指し驛構內の辨當一手取扱ひを初め他の旅館の遠く及ばざる幾多の獨得な強味を有してゐる事が榮ゆく理由であらうが、茲に特に紹介せんとする同主人酒井清氏は亦た實に少壯の手腕家であるが亡父勇次郎翁の後を繼ぎ家業に專念する傍ら平の消防組小頭その他の榮職にあり町治の爲め公共の爲めには常に絕大なる貢獻を拂つて惜まない有力、活動の人である、健全なる宗教心は[illegible]崇祖の念[illegible]現[illegible]先年巨費を投じて亡父の胸像を建立し以て子弟末孫への訓教の範を示してゐる等[illegible]の美德である常に文學を好み史實の研究に意を傾け[illegible]政治に趣味を有して叫ぶ所必らず衆人の注目を喚起して餘りあり平町の少壯有爲の手腕家として來るべき町會の改選には當選衆望を負つて起つべき順序ともなつてゐる

高野分店

平町田町本通り高野分店主高野卯之吉氏の名を聞く人は直ちに、いはらき新聞の高野氏に思ひ到るであろう然りことほど左樣に高野氏はいはらき新聞と切つても切れぬ深い關係がある、茨城縣の土に育まれた氏は大正五年いはらき本社に入社し當時開設忽々たりし平支局に在り義兄小和口虎雄氏と共力して專ら地盤の擴張と紙價の發揚に日夜懸命の努力を拂ひ拔くべからざる同社の基礎を築き上げたのである、在社十一年の長きに亘る氏が熱心努力の結晶は獨りいはらき平支局の礎を固めしめたのみならず大正七年より傍ら開業した現在の商店が日に月に榮ね、高級食料品、食器、裝飾品具、電氣點燈諸器械等なに一つ不足のない平町屈指の大商店となつたのである、實直と勉強は益々信用を博し追手に帆を揚げた舟の如く順調に榮えゆく同店の將來は大いに世の注目を惹いてゐるが高野卯之吉氏は令兄たる高野自轉車店と令弟の高野洋服店とがあり三兄弟揃つて平町の成功者であり茨城縣人の誇りであるが、氏の得意やまた想ふべきものがある。

猪狩署長が自ら 下の病の講演
愈々九月一日から實施 平署準備に忙殺

愈々來る九月一日から全國的に花柳病豫防法が施行される事となつたので平署では目下此れが實施準備に頗る多忙を極めてゐるが藝妓酌婦は勿論水仕、カフェーの女給等まで此の法律の適用を受ける事となつたので平署は此の法律を此等水商賣の者に周知せしむる爲め次の如き日割で管內全部に亘り花柳病豫防法の講演會を催す事となつた、因みに講師は猪狩平署長弓田技師外數名である

△廿五日午後一時から平聚樂館で平、內郷、好間の藝妓、酌婦、水仕、女給

△廿六日午前九時豐間村で同村酌婦水仕△同日午後一時から小名濱町で小名濱、江名、兩町の藝妓、酌婦、水仕、女給

△廿七日湯本町で同町及磐崎村の藝妓、酌婦、水仕、女給

磐中軍惜敗
磐陽組勝つ

縣立磐城中學校競技部選手と石城郡下小學校職員の選手を以て成る磐陽チームは去廿二日午前十時から磐中グランドに於て本年まれなる炎天下に猛烈なる練習試合を行ひ午後二時半終了したが成績左記の如く總點に於て磐中廿四對磐陽廿八で磐中は惜しき敗をとつた

百米一著小林（磐陽）二百米一著同上、四百米一著草野仁（磐中）八百米一著金成直衛（同）高跳一鈴木（磐陽）巾跳一金成龜太郎（磐中）棒高一高橋（磐中）ホスジャンプ一佐藤隆丸（磐陽）總採點百米（磐陽四、磐中二）二百米（三對三）四百米（三對三）八百米（磐中六、磐陽〇）高跳（磐陽五、磐中一）巾跳（磐陽三、磐中一）棒高（三對三）ホスジャンプ（磐陽六、磐中〇）リレー（磐中五、磐陽一）

農銀支店長更迭
河西氏は本店庶務課長 鈴木縣議の談

本縣農工銀行平支店長河西八十治氏は今回本店詰庶務課長に榮轉し後任として若松支店長たる安部文三郎氏が後任に決定したが榮轉の祝辭を述べると河西氏は

永い間大過なく行務の遂行をなし得たことは偏に各位の御庇護の賜で感謝に耐いない、經界混亂の太事の秋に際し益々短才を揮つて貢獻したい覺悟の外ありません

と語つたが河西氏の榮轉に際し縣會議員鈴木辰三郎氏は

河西君は熱誠篤直の精勵家で其の手腕を認められ白井頭取時代副支配人に昇格した人である、河西君今回の榮轉は白石新頭取が縣下の事情に未通の爲め精通せる河西君を庶務課長として直接頭取の補佐役たらしむる絕大な榮轉で大に祝福に耐いない云々

望月內相歸京

北海道に出張中であつた望月內務大臣は二十三日午前二時三十三分平驛發急行列車にて常磐線を經由して歸京した

古河第二期擴張
地質調査技師を携へて 鑛業課長が來山

石城郡好間村古河炭礦東京本社の鑛業課長坂本修作氏は好間鑛業所第二期擴張計劃の爲め地質調査技師を伴ひ二十四日來山したが二三日滯在調査の上歸京の筈である

宿料踏倒し

双葉郡上岡村農業吉田良祐（四〇）同村安藤龜吉（四三）同人妻トシ（三九）の三名は去る五日から十五日まで十一日間平町字新川町新藤屋事店武元之助方に投宿したが十六日夜活動を見物して來ると稱して同店を出たまゝ宿泊料五十五圓餘を踏み倒して逃走行方を晦ましたので元之助は今廿四日平署に前記三名を相手取り告許を提起した

平交通取締
た盆を前の雜踏

お盆も三、四日の後に迫り毎夜の如く平町商街はお中元贈答品の買入其の他の人出で賑つてゐるが此の人出に伴ひまた〱交通事故が頻發して來たので平署では今廿四日から市內の交通特別取締を執行する事になつた

湯本町議 召喚
鯨岡氏取調中

石城郡湯本町々會議員鯨岡清助氏は二十三日平署に召喚、伊藤司法主任係となつて取調をなしたが、事件の內容は一切不明である

四家剛氏逝去

平鄉村素封家四家[illegible]令弟四家剛氏は帝大在學中[illegible]般本村代議士令孃と結婚したが病を得て休養中二十三日午後八時逝去した

丼で頭割る
關係者を取調中

平町田町大崎一郎（三三）は昨二十三日午後九時頃平町字材木町飲食店富士屋事小林トミ方で材木町吉健方職人嵐鶴壽（二八）外二名と共に飲酒中些細の事から鶴壽と口論の果てドンブリを持つが早いか鶴壽の額部目がけて投付け全治二週間の裂傷を負はせて逃走したのを平署平澤刑事が爲めに逮捕目下本署に於いて嚴重取調中

社告

營業部員 一名

廿歲以上卅五歲以下の活動家を至急募集す

本人履歷書持參午前中來談あれ

磐城新聞社

時言

平町の傳患發生七十七名である、負債の多いのと傳染病は餘り譽れにもならぬ、小さい聲で願ひしたい

◎

花柳病豫防の檢診で女中や女給が大恐慌、此の點一日の長ある藝妓、酌婦連中こゝでも得意の体

◎

御亭の睾丸を握りつぶし溜池にドブンと身投げした燒餅女房がある、犬も食はぬ夫婦喧嘩では芭蕉の句にもなるまい

高久病院
電話五一三番